

民主主義の旗

民主主義学生同盟全国委員会
編 集 局 振替 (大阪) 13014
大阪市阿部野区松崎町4-1-14
＜1部 20円、1ヶ月 70円
(送料とも)＞

国際学連の旗の下

単一全学連を再建しよう

中教審答申粉碎・民主的改革勝利へ

4.18 全国学生統一行動に起て
大阪では全関西総決起

大阪では全関西総決起集会

のくりかえしにはならな
今こそ政府、独占と真正面か

4.18
沖繩返還
安保廃棄
全

實の支配權に担当權の發動を確保せんとするものである。

そして、もう一方においてはこれらを含む形で、大学院大學化、副學長設置など大學一教育の全面的かつ帝國主義的再編と支配、その法制化としての「新大舊法」制定、それへの第 2 歩である中教審管申、教育機能停止法案「秩序回復特別措置法」などを準備している。

このような中で政府・文部省が「招集」した「国立大学長会議」は、かかる政府・文部省、独自の大學に対する「指導」の強化、その大學政策の押しつけを企及するために行なわれたものに他ならない。即ち、政府・文部省は、自ら大學に対する反動的文教政策・文配政策を押し進め、一歩的再編、支配の法制化——中教審管申「新大舊法」制定を準備し、これを手づかせながら大學に「指導」を強制するのである。そしてこの「指導」が十分貫徹しないと見るや、その法制化を強行せんとする

このように政府、独自の反動的大學再編、支配の攻撃は、現在の大學の体制の弱さを「鋭く」ついた形で、また、一方における「大學解体路線」を最大限利用した大學に対する「治安」の強化と結びつき、極めて巧妙な「両面作戦」としてかけられて來ている。

真に國々体制の構築こそ急務かかる中で「国立大学長会議」では大學側から政府・文部省に対して「大學の自主性の尊重」が強調されたが、我々はこれを「自主弱

全大阪反戦青年委員会は、三月十四日の代表者会議の決定のもとにつき、四・二八闘争の勝利をめざして、沖縄返還安保廃止四・一八闘争大青年総決集會に加盟団体が、総力を結集することを呼びかけている。

学生の加盟団体である大阪府学連では、阪大、市大を中心に中教大、審査甲粉砕の闘いと結合した大衆的に闘いをめざして、取りこんで

4.18 沖繩返還 安保廃案 全

四二八 沖繩闘争準備進む

復歸協国会座り込みを提起

政、文部省はこれまで東京大に對する直接介入を突破口に、民主的改革的圖いが展開されている東大、京大、神大、日大、立命館大、學學など全国の大学に對して「封鎖」「学内ゲルト」などを口実に直接、あるいは学内反動派

沖繩の全民主勢力を結束した共
斗組織である祖国復帰協議会は、
第十四回定期総会において、①サ
フランシスコ条約第三十條撤廃
②米軍基地の撤去
③米軍基地の撤去
④米軍基地の撤去
⑤米軍基地の撤去
⑥米軍基地の撤去
⑦米軍基地の撤去
⑧米軍基地の撤去
⑨米軍基地の撤去
⑩米軍基地の撤去
⑪米軍基地の撤去
⑫米軍基地の撤去
⑬米軍基地の撤去
⑭米軍基地の撤去
⑮米軍基地の撤去
⑯米軍基地の撤去
⑰米軍基地の撤去
⑱米軍基地の撤去
⑲米軍基地の撤去
⑳米軍基地の撤去
㉑米軍基地の撤去
㉒米軍基地の撤去
㉓米軍基地の撤去
㉔米軍基地の撤去
㉕米軍基地の撤去
㉖米軍基地の撤去
㉗米軍基地の撤去
㉘米軍基地の撤去
㉙米軍基地の撤去
㉚米軍基地の撤去
㉛米軍基地の撤去
㉜米軍基地の撤去
㉝米軍基地の撤去
㉞米軍基地の撤去
㉟米軍基地の撤去
㊱米軍基地の撤去
㊲米軍基地の撤去
㊳米軍基地の撤去
㊴米軍基地の撤去
㊵米軍基地の撤去
㊶米軍基地の撤去
㊷米軍基地の撤去
㊸米軍基地の撤去
㊹米軍基地の撤去
㊺米軍基地の撤去
㊻米軍基地の撤去
㊼米軍基地の撤去
㊽米軍基地の撤去
㊾米軍基地の撤去
㊿米軍基地の撤去

去斗争の爆発的昂揚は、沖縄県民と本土人民との強固な連帯斗争を要請している。かかる意味で、昨年10・21国際ベトナム反斗争を

各地総評労働者と連帯し唯一原則的に闘い抜いて大衆的決起を指導して来た我が同盟の学生戦線における任務は重大である。東京中央

体の強制的「取捨」と大学への機
 動隊出動既成事実を行つて来たた
 だ、**「教育公務員特例法」**
 をタテにした、井上九大校長代理へ
 の辞令の「さし止め」北大教育学
 部長の選挙方法を「理由」として
 「任命延期」にみられる大学人事
 への介入、内閣法制局と一体化し
 た文部省による「任免権」掌握の
 なじくすしの「実演」を演じてい
 る。

②安保条約破棄、③軍事基地撤去、④日本国憲法の完全適用、の四点を基とし、ローガンとする四十四年「機運運動方針」を決定し、4・4の沖縄デーには、本を行なうと誓ふ。4・28沖縄基地撤去、全面返還、安保破棄、国統、行動に同じて代表五〇〇人を派遣し、4・24から28日中央国民大会で国会前座り込みを中心にした抗議行動を提起している。同時に現地沖縄では4・28当日に県民総決起大会を予定し、2

民主主義學生同盟の第十一回全
國大会が、三月二十二、二十三、
二十四の三日、全國各地に

第11回
四月斗争

第一に、機動隊の学内出動を積極
重ねる事によつて、民主的改革潮
争を弾圧すると共に既成事実化を
通じて大学支配のための「治安」
の強化、その法制化への道を切り
拓かんとするものであり、第二に
中数審答申、「新大審法」制定を
射撃距離におき、仮にそれが「憲

撤去・原露富留阻止・核基地撤去

・4月29日を以て「止むる本土」
沖縄の連帯した斗争をめざし既に準備を始めている。

沖縄においては去る、月四日、ゼネスト中止といふ事態にもかかわらず断乎敢行された沖縄教職員会、宮公労、マスコミ共斗などのストライキに交えられて、「B-12核への投擲を拒んでいる」というのが、この国で諷印、拙推の進んでいる核拡散防止条約に日本政府は今なお諷印していないことは、そのひとつの証左であらう。この政府独占の独呂核武装への野望は、我々が安保破棄の闘いの中で粉砕すべき対象として存在している。

沖縄における本土復帰・基地撤

の旧大臣像に於いて、今日を境
らの代議員評議員の出席のもとに
開かれた。激動する、国際国内情
勢を反映した大学の民主的改革
勢の高揚の中で行われ、次の三つ
の任務を持つていた。第一は政府
独占の反動の大学再編成に對決
大学の民主的改革で闘つことの意
志統一を行つこと。

第三は、中教審答申紛糾、新大
管法阻止、大学の民主的改革闘争
勝利、安條条約破壊を担う強固な
学生同盟を築き上げること。
二日間わたる白熱した議論は
大学の民主的改革闘争に集中し
た。神奈川大学、京大、阪大、神
大、大阪市などから、それぞれ

主張

張

全國の學友諸君
新人生語吾／＼70年安
保改訂期を目前にし
て、政府、独占の
政治、經濟、軍事に
わたる帝國主義的再編成、そして
その一環としての大學および教育
全般に對する反動的再編策動の中
で4月以降の闘いは展開される。
民主主義學生同盟は、かかる四月
以降の闘いの先頭に立ちて闘ひ抜
く事を宣言し、闘つ友情と連帯の
挨拶を送ると共に、闘ひの方向性
を明らかにし、全國の學友諸君、
新人生語君がこの闘争に決起され
ん事を呼びかける。

盾を直撃の契機として、その
闘争の中で、それに留まらず、そ
のような矛盾を生み出して来た基
礎そのものに對する闘いへと突き
進んで來ている。即ち、その基本
的かつ最大の原因として存在する
政府、文部省の独占の要請にみ
つた形での反動的文教政策、予算
の切り詰め、文部官僚事務官僚の
送り込み等を通じた大学支配政策
そして、それに対決しえず有効に

各學園での闘いが、単なる処分撤
 回闘争、授業料値上げ反対闘争等
 としてだけではなく、政府、独占
 と対決する闘い、大学の撤廃した
 民主的改革の闘いとして位置づけ
 られねばならない点であり、また
 個別学園闘争として結合させる闘
 いの「質」である。かかる「質」
 によって結合された全国学園闘争
 Ⅱ政府、独占の反動的大学再編粉
 砕、大学の撤廃した民主的改組勝
 全国各地學園での大学民主的改組
 中争に露骨に敵対し、一方でその
 中に存在する誤った傾向Ⅱ口語
 派の「封鎖貫徹」Ⅱ「大学解体」
 路線、学内ゲバルト「発動を最大
 限利用し、闘争全体に対する弾圧
 強制的「收拾」「正常化」を図り
 つつ、更には自民党文教制度調査
 会、中教審報告にみられる如く、
 一方で大学の全面的かつ反動的再

た民主的改革をかつとり、大学を
反独占の營とするのか”という点
が、政府・独占と我々との対決点
である。

このような中であつて、斗いの
方向性がわからず、斗争勝利の確
率も何ら持たないが故に全を
“粉粹”と“自己変革”に解海
学友の斗争エネルギーを消耗させ
“封鎖貫徹”にしがみつくと口を

呟（つぶや）く！

のセクト主義から、斗争を下口湯治^{（一）}にのみ嬌小化^{（二）}している。全国の学友諸君、新生諸君、我々ははっきりと確認しようではないか。

政府、独占の反動的大学再編対決、大学の撤廃した民権的革新の斗争を更に推しすすめるためにはならない事を、そのために「中教審答申、新大憲法制定粉砕」、大学民主的改革勝利^{（三）}、4・18全学学生統一行動を直ちに準備し、決起しよう。

政府、独占の反動的大学再編対決答申、新大憲法制定を粉

は、大学内に存在する様々な諸君と
私学の関いはての事をはっきり
と示している。

これらの各地学園での闘いは
大、近畿大、立命館大、関西等の

対処しえなかつたが故に、その「貫徹」を許し、大学内部に矛盾を累積させ、それに甘んじて来たこれまでの大学の体制（大学自治と教授会のみ自治）に対して、徹底した民主政改革を遂行し、政府・独占と対決する新たな大学・科学と民主主義の誓い「反独占の誓い」としての大学を建設してゆくべしといへと発展して来ている。

この点こそが今日における全篇

利の闘ひ」こそが、單なる個別學團闘争の算術的總和としての「全國學團闘争」ではなく、まさに政府・文部省・独占の真正面に対決する眞の意味での全國學團闘争として存在しつゝのである。

それ故に、我々は四月以降の闘ひにおいて、全国各地學團での闘ひの中で、このような闘ひの方向性として「眞」を更に強めてゆかねばならぬ。

●政府・独占の反動的大学再編成を強行せんとしている中にある政府・独占との鋭い対決
●中教審答申、新大憲法制定を粉碎、そして実質上の最高決定機能を持つ全學協議会の確立を中心とする學團における徹底した民主的改革
●全大学の闘ひ連帯の創出と學團体制の構築が一段と強く要請されている。

●政府・独占の反動的大学再編成を強行せんとしている中にある政府・独占との鋭い対決
●中教審答申、新大憲法制定を粉碎、そして実質上の最高決定機能を持つ全學協議会の確立を中心とする學團における徹底した民主的改革
●全大学の闘ひ連帯の創出と學團体制の構築が一段と強く要請されている。

派の「大学解体路線」は、政府独占と有効に斗いえないところを全く斗いえず、斗争を分断し、さうに政府、独占の「二正面作戦」の一方の道を掃き清める結果となっている。最早、その破綻と犯罪は明らかなつて来ている。

また、民権諸君は、この斗争を議要求の中にしか位置づけず、「一政府、文部省の攻撃があるから」という理由で一切斗争

し、大学の撤退した民主的改革勝利しよう。

4・18第一波金學學生統一行動に大衆的に決起し、圧倒的に成功させよう。

全大學生の斗争連帯を創出し、政府、独占と対決する新たな大衆を建設しよう。

全大学人の闘う連帯を創出し
政府独占の反動的大学再編を

学生統一行動を直ちに準備し、決起しよう！

政府、独占的反動的大学再編中教審答申、新大憲法制定を粉砕しよう！

なかつたが故に、その「
を許し、大学内部に矛盾を
を、それに甘んじて来たこ
の大学の体制（大学自治）
のみの自由）に對して、撤
民主政改革を遂行し、政府
と對決する新たな大学」科
主義の磐」反独占の磐
この大学を建設してゆく闘
發展して來ている。
照とそが今日における全国
利の闘い」こそが、單なる個別學
團園爭の算術的總和としての「全
國學園園爭」ではなく、まさに政
府・文部省・独占の真正面に對決
する眞の意味での全國學園園爭と
して存在しうるのである。
それ故に、我々は四月以降の闘
いにおいて、全国各地學園での闘
いの中で、このような闘いの方向
性とし「眞」を更に強めてゆかねば
ならない。
Ⅱ中教審答申、新大憲章
編成を強行せんとしてい
つて、政府・独占との鋭
中教審答申、新大憲法制
そして實業上の最高決定
つ全學協議會の確立を中
學園における徹底した民
全大學人の闘つ連帯の創
体制の構築が一段と強く
ている。
「政府・独占の反動政

派の「大学解体路線」は、政府、独占と有効に闘いえないどころか全く闘いえず、斗争を分断し、逆に政府、独占の「二正面作戦」の一方の道を掃き清める結果となっている。最早、その破綻と犯罪性は明らかとなつて来ている。

また、民青諸君は、この斗争を議要求の中にしか位置づけえず、一政府、文部省の攻撃があるから」という理由で一切斗争を

大学解体路線をきっぱりと拒否し、大学の徹底した民主的改訂勝利しよう。

4・18第一波学生学生統一行動に大衆的に決起し、圧倒的に成させよう。

全大学の斗争連帯を創出し、政府、独占に対決する新たな大を建設しよう。

同盟11回大

四月斗争方

の國の統治を
な意見が展開さ
集中した討論
の大学政策は
業段階」と規定
帝國主義の再生
た労働力の質（
び管理労働者）
をとおして貫徹
力養成政策とし
ことが明かにさ

部省の大学に對し、獨占資本の略は三つの性格が確認された。第一は、大学院大學等に明顯なる大學區、教育内容に術教育と道德教育と専門家力の養成と小階上。

教育行政にお體制の整備(訓制の確立、文與中教審三層部省は學生運動を意圖し、四月管理運営の反覆あり、それに對成員が、強固な民主勢力と連携認された。

阪大文部から一體となつたた一プの機動隊區の策動、それをして行わんとされた。

また京大、神

中止を口實とし

